

津絵 太陽

Q1・クロッキーの際に、重視している要素や目指していることは何ですか？

手の慣れではなく、その場で見たものを率直に画面に反映することを重視しています。

Q2・好みの画面サイズや時間、その理由があれば教えてください。

木炭紙大が最も馴染みのあるサイズです。1~2本の線で止めることもできれば、ある程度描き込みを進めることもできるため、目的に応じて使い方を換えやすいという点で気に入っています。

Q3・黒色の素描材料では何をよく使いますか？また、どのようなメリットがあると考えていますか？

柳の中太軸の木炭をよく使います。力を入れて面の色を入れる太軸と、細くて鋭いタッチを入れやすい中軸のコンビネーションが画面の緩急を作るのに適していると考えています。

Q4・クロッキーにおいて「黒」をどのように使いたいですか？

ただ同じ「黒」が明るい暗いで見えてくるのではなく、1本の木炭や鉛筆から、より多くの色味を感じさせることができるように使っていきたいです。

Q5・描き出す際、輪郭、稜線、軸などのうち、どの要素に重点を置いて始めることが多いですか？（特に人物の場合）

稜線を重点に描いていくことが多いです。輪郭的にバランス良く入れても、稜線次第で明暗の重心が偏ることがあるためです。

Q6・クロッキーの制作途中で特に注意している点がありますか？

1箇所には執着して全体への意識が薄れないように気をつけています。

Q7・クロッキーの仕上がりを確信するのはどのような時ですか？

画面から不足感が消えた時。ふっと木炭を置きたくなる感覚があります。ただ、あまり多くはないのでまだまだ失敗しながら学んでいきたいと思っています。

Q8・クロッキーとタブロー（彫刻の場合、立体作品）で同じ対象を捉える場合、感覚の違いなどはありますか？

タブローでは完成プロセスから逆算して最初から細かくならざるを得ないタッチなどを、クロッキーでは気にせず伸びやかに描き出すことができるため、クロッキーの方が解放感があり、タブローは建設的な感じがあります。

Q9・作品制作時にクロッキーをどのように役立てていますか？

画面の中に入るものの形態感を捉える力を養うとともに、特に描き出しで画面全体に大きく入るタッチの質を向上することに役立てています。

Q10・あなたにとって、クロッキーはどのような意味を持っていますか？

私の作品には、表面上大きな単位のタッチは見えてこないことが多いですが、構想を練る際や、描き始めに手探りで対象を捉えようとする際に、その土台として確実にクロッキーが存在していると思っています。基礎工事のような、表には見えないけれども欠かせない重要な意味を持っています。